

置県130年記念企画展示

富山県と治水

越中国、ならびに富山県の発展は、常に水とともにありました。

富山県の河川は、その水質と豊富な水量により県民に多くの利益をもたらす一方で、たびたび水害をももたらし、県民を苦しめもしました。また、130年前に石川県から富山県が分離独立したのも、治水に対する両県の価値観の相違からとも言われています。

近年大きな河川災害が少ないのは、先人が治水・砂防に並々ならぬ努力をした結果に他なりません。

今回、当館が所蔵する治水、水害、砂防などに関する資料約100点を一堂に集めました。富山県の治水の歩み、それにかけた先人の思いを感じ取っていただければと思います。

「安政五年四月常願寺川筋大水害略図」

“安政五戊午四月廿六日(1858年5月9日)昼ハツ頭俄ニ泥押出し”
と題し、加賀藩領108村、富山藩領18村の冠水地域を薄墨で描いている。

富山県立図書館 1F閲覧室にて

期間:平成25年6月11日(火)～30日(日)

入場無料／ご自由にご覧ください

主催:富山県立図書館